

あしでふ

第百六十八号

全島あげて
必護の信念堅し



防空演習記念號

あしでふ

學校日誌より

六月四日 齋齒豫防デー、講演會及び齒科検診ヲ行フ

六月六日 研究授業(尋三)東方永日訓道場ニ行フ終テ批評會開催

六月八日 徴兵検査一為臨時休業

但高等科先登陸隊兵出迎ハ泊止場へ赴キ

六月八日 英字査問等々為休業

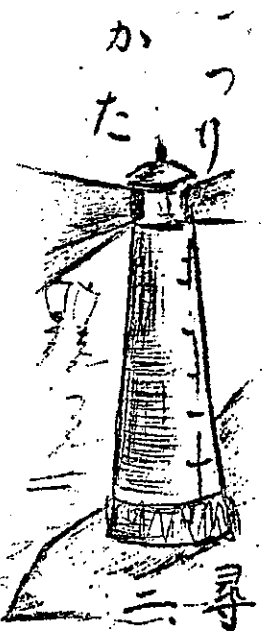
但高等科先登陸隊兵出迎ハ泊止場へ赴キ

六月二日 平日ヨリ授業短縮

六月二日 防衛國演習舉行、少年海防隊参加、借令、テ活躍ス

六月二日 午後少年海防隊、クツアミニ返リニ袋澤ニ赴キ

其他 六月五日、漁獲船、六月二日、六五九、船視見、學ヲシマシタ。



▲ゆう方 おくやま きみ子
きのふ日がくれてもゆきをちやんが
かへつて来ないのでさかしにいき
ました。

▲ゆう方 おくやま きみ子
きのふ日がくれてもゆきをちやんが
かへつて来ないのでさかしにいき
ました。

▲ゆう方 おくやま きみ子
きのふ日がくれてもゆきをちやんが
かへつて来ないのでさかしにいき
ました。

▲ゆう方 おくやま きみ子
きのふ日がくれてもゆきをちやんが
かへつて来ないのでさかしにいき
ました。

▲ゆう方 おくやま きみ子
きのふ日がくれてもゆきをちやんが
かへつて来ないのでさかしにいき
ました。

▲ゆう方 おくやま きみ子
きのふ日がくれてもゆきをちやんが
かへつて来ないのでさかしにいき
ました。

するよ。
とゆきをちやんはおかあさんに
しかられました。

▲びやうき 高内 ぎん

このあいだおねえさんがびやうき
になりました。

おかあさんはくすりをのましたりし
ていらつしゃいます。

けい学校からかへつてみるとふとん
の上におきておました。ぼくはい

もくとふとんのそばであそんで
みると、おかあさんが

「ごはんですよ。」
とおっしゃいました。

おねえさんは一人でたべておます。
ぼくたちはみんなでたべます。

はんはおとうさんもおかあさんも
ねずにしっぶをしたり、ふとんを
かけてやつたりしていらつしゃいます。

おと人が「十三の北にこれとゆふべに」
に食はれたいつた一匹のこつたのつに
れも又食へられぬといふやうにあらしとい
つて、親鳥といふ一匹のこつたのつたのつた
ました。すくおと人が「おと人が」
鳥の屋のせ入れました。

ひよこを育てるのむだの、みづう、旅おぼら
を返して、朝おぼらとひよこにやりませ
親鳥は自分は今へはいせよと云ひませ
といひ存がひひよこに今へはいせませ
ぼんは「ひよこを育てるむだのせよ」
らおぼら、おと人に「おと人が」と思ひ
ます。

四 病氣

こぢひだはあぢやんが、病氣にな
した。私が「はあぢやんが」
つて、「おと人が」と聞くと、「おと人が」
つて、「おと人が」と聞くと、「おと人が」

尋 四 つばり方

雨だれ

雨がふると木の葉やそこらの屋根など
に雨のしづみがたまつてなる。この間、勉強
してあきなので、窓の方を見ると、ポツ／＼
と言ふ音、何だろかと思つて見ると、水の
玉にち母さんに聞いて見た。するとち母さん
んは、「おれは雨が降ると屋根の上に落ちた
水が流れて来て、玉になつて落ちるのだよ。
と教へて下さつた。私ははじめてわかつた。
するとち母さんは又「ねっしんは岩をぬく」
と言ふ言葉をお教へて下さいました。

島取

昨日の夕方、僕がじやん場の度へ
行つて遊んで、と思つて一人で行きま
た。おれを地やんに書いて、そこに島取
を書きました。そこへひやうびが来ま
遊ばう」と向かうから、もう言つたので

加賀谷肇

も取

榮子さんがあ家で遊んで居ました。私
は「榮子さん遊ばせよう」といひました。
んで、「わ」といひますと昌夫さんも遊
んでやれよ」といひました。

藤田澄子

菊池スエ

僕はおとさんと書いてあつた島取と
しやうと書きました。そして、島取と書
た。おとさんがおとさんと遊んで、おと
僕は五つ目でだめになりました。おと
つて行く中に僕のおとさんがおとさん
僕は負けました。おとさんがおとさん
けんめいしました。今度は僕がだん／＼勝
てきました。しむはひやうびは小さくな
てしよう／＼僕が勝ちました。すると仕事
をしなかりおとさんを見ておとさんが
「勉強もそのぐういやるうで下よ」と言
ました。

僕はおとさんと書いてあつた島取と

その中栄子さんはどこへ行くかと思つて
ついで行かすよとはたけのすみから長
い棒を持ってきて、棒でもうをたう
いたすともうは勢よくポンとはね
落りた。私は笑小にも笑ふけれど
「栄子さん」といふと、栄子さんは目
を丸くして「澄ちゃんだまておてよ」と
いひました。

たこ 石井光子

たこさんのお家は穴の中し
とこさんお岩の上で何して居る。
私は兄弟とあどります。
赤い頭におじ八さまで
足を立て、あどります。

たこさんのお家は石の穴
穴のお家に誰がゐる
兄弟をあて、穴の中
父さん母さんも穴の中

穴のお家は水がうけ。

小ねこ イサキセーホト
うちの小ねこは、かほい、小ねこ、
まりを落せば、ねこも落る。
向ふ小の小山に、お月様で、
小ねこはまりとじゃれてゐる。
ほんまに小ねこは、かほい、ほ。
私のまりもやぶかれた。
買った赤いまり、又やぶられた。

日まほり

藤滝静子

うちの度の、日まほり草子、
いつもえぼつて立ってゐる。
一寸花にさわらうと、又さし指で
ふしたれど、
根この方まで、ゆれました。
まはしつかりさ、てあつて、
せん存にゆれてはあふないよ、
一生けんめい、そだて、よ。

五年生の童謡

夏が来た

奥山 栄

夏が来た

管 詠 叶

暑いおぼんも

そちくくと

早く来てくれ

夏おぼん

夜の港

菊池 清

夜の港は

キラくくと

いつまでたつても光つてる

手の光が

かゞやいて

ほんとに気持ちのよい港

おぼん

小倉山タケ

おぼん

なっている

おぼん

かほい、ね

夜はだれで

いい道持

涼しい小屋に

いるひよこ

歌をうたつて

遊びます。

かく隊

原田年光

家の前では

かく隊が

どんくくと

うみまひよ

向ふの方へ 行つたらば

そこで止つて 話をする

話を聞くと 又とんどん

後をついてる 子供たち。

小林貞枝

ざんぷりくと おしよせる

かほりぼんこに おしよせる

大波小波 ざんぷりこ

今おしよせた あのかは

どこへ行つたか 次の波

いつまでつづくんか 海の家

暑い夏

長い夏の日 来て見たか

どこへ行つても 暑い

一体どこが 暑い

海へ行つたら 暑い

けれど我等 暑い

少女に一人を 暑い

暑さの人の心 暑い



防護團の演習 奥山昌英

ザンぷりくと 静かな闇を破つて聞える
半鐘の音、ゴアケー「ブー」と気味悪くうなる
サイレンの音、ばた／＼と人々の避難する足
音。僕はがばと飛起きて寝巻のみ、飛出した。
空襲々々「早く避難して下さい」と叫ぶ人
々の聲を後に僕は一散に司令部の海岸にかけ
つけた。見るともう始まつて居た。
ゴダゴダと機関銃の音、パン／＼と
と鉄砲の音。それが一共になつてゴダゴダ
パン／＼とひびいた。沖には敵の潜水艦
航空母艦が居るそうだが。敵を上陸させないや
うに青年團や防護團の人達が一生懸命防
いで居る。僕は南無八幡大菩薩ごうか大尉を
守つて下さいとおかんだ。我が忠勇なる兵士

は遂に上陸して来る敵を全滅させて演習は日出
度く終つた。かへる途中人々は「今日の演習はす
ごかつた」と誇金つた。
そうだがこの小笠原はまはりが海だか、いつ敵が
攻めて来るか分らない。僕も早く大きく立つて
此の小笠原を降り度い。そう思ふと僕の血は身
体中を駆けめぐつた。

昨夜の演習 池田光

パン／＼と闇を破る鉄砲の音に夢を破ら
れてとび起きた。その音をきくとじつとねて居り
れなく存つて、私はそつと蚊帳から出て目を開け
表に立つた。もうその時は鉄砲の音は止んで
居た。私はしんとした道を一人であちこち歩き
まはつた。その中何處からか又鉄砲の音が聞
えて来た。私は急いでカヌーの中に入つて見て
居ると、兵隊さん達は重く鏡をかついであちこ
ちへ行つてしまつたので、カヌーから出てうけ
に坐つた。そうしてこんな事を考へた。「私も男
に生れて来ればこんな演習も出来るのに、どう

して女に生れたらうと
全く昨夜の演習は愉快であった。
見られなかつた演習 毎田 米

昨夜防護團の演習があつた。私はそれを見る
のを朝から楽しみにして居たのだつた。そして
早く夕飯を食べてお風呂に入つて見やうと
した。私が下度お風呂に入らうとした時お父
さんが入るつて言つたので自轉車の上つて
んで居たり父は出たと云つたので急いで行つ
たらば今度は一男兄さんが入ることになつた
のががっかりして本を讀んで居た。やうやく
一男兄さんも出たので入らうとしたら又正男
兄さんが學校に行くから早く入ると言つて
入つてしまつた。又本を讀んで居た
らもう出たと言つたのではだかになつたら
男兄さんが入るといつて入つたので御飯を
先に食べて居たり出たといつたので入らうと
したりつる姉やんが入つてしまつた。私は
とうとう一番終に入りました。お風呂に入つ
て出て来たうもうねなさいとお母さんが言

つたので仕方なしにおきました。それでは昨夜の演習
の演習は分りませんでした。今度又二十四
日には全部の演習があるとの事ですから今度
こそ見やうと楽しみに待つて居ます。
吉田 亮二

電氣を消して下さい
これでいゝから
僕は二階の窓から様子
を見て居た。村は暗くてしんとして居た。しばらく
すると突然「空襲」の音が今まで静かだつ
た村中にひびき渡つた。そして闇の中を人々
があつちこつちとかけまはつて居る。
僕の心は本當の鼓動が始まつたやうにふるえ
た。燈火管制が然つた。
二階から降りて電燈をつけるときがしくて目
がちり／＼した。

防護團演習に参加して

去る二十四日は大村防護團演習で僕等大村小隊の隊員は此の演習に参加しました。僕等
桂三君は機関銃隊の傳令に命ぜられた。隊長は田代泰之助君であつた。機関銃隊は
波止場に揚所をとりまいた。そして機関銃を一門ずつつけました。桂三君は菊池敏美君の隊に
入り僕は田代泰之助君の隊に入りました。すつかり支度をして練習を食へた。そして八時半にな
るまでおることにした。目がさめた。すると海上監視隊傳令成美君が要岩と居風谷の沖に
敵の船が三隻ありますと傳へて来たので直に機関銃にとりかゝつた。大村小隊は黒岩の
距離にたると打ち始めた。すると敵は逃げ去つてしまつた。大村小隊は黒岩の沖に
あつた所に帆が見えたので直に海上監視隊に報告した。海上監視隊ではすぐに團本部に報告
した。船が五人／＼近寄るとあつちこちでも銃聲が聞えた。隊がすむにつれて火災が起る。
て突撃した。あつちこちでも銃聲の音が聞えた。隊がすむにつれて火災が起る。
十時半に夜食をした。あつちこちでも銃聲の音が聞えた。隊がすむにつれて火災が起る。
三時半になった。すると又敵が攻めて来た。機関銃をうち始めた。敵はこれを最後に陸上めが
けて突撃した。すると突撃隊の「わー」と言つて攻めて来た。青年学校生徒が敵三三名
を捕虜とした。演習はこれで学校に集り團長司令官副官殿の訓示があり関兵が分列
が終つて父島防護團演習は無事に終り解散した。

白一藤滝清

初夏の一日

高一鶴千賀子

戸の隙間から漏れる光線と共に、おぼろげな朝霧を透かして、芭蕉の山吹の匂いが立ち上る。おぼろげな朝霧を透かして、芭蕉の山吹の匂いが立ち上る。おぼろげな朝霧を透かして、芭蕉の山吹の匂いが立ち上る。...

夏の空想

高一山下岩南

僕は夏になると第一に寝てつくつて遊びが第一面白。一番最初には大に集めて釣りに行く。釣りに行く。...

園藝の趣味

高一石津若子

先生も方も人からすめり水で園藝をする事になった。一日の晩と日暮のたつ中に、おぼろげな朝霧を透かして、芭蕉の山吹の匂いが立ち上る。...

高二作文

大村児童園藝會

浅沼良次

我等人間は地球上に生まれて土の恩を受けたいもの。誰一人として居ない。これをよく理解して、小笠原島民は島の為に、大人は島の産業に従事し、子供は園藝に親しんで島の園藝を盛にして、小笠原島の産物を日本各地に紹介しなければならぬ。...

私の園藝

磯崎時彦

私は大村小学校児童園藝會が開かれる前に少しばかり園藝をしてゐた。園藝會が開かれてから一層園藝に力を入れた。私の植木は主に夕コの水谷渡り、天の植、おもと、甘大他名のわからぬもの、おぼろげな朝霧を透かして、芭蕉の山吹の匂いが立ち上る。...

園藝の力

笹本 清

私は大きくなるに随つて園藝の大切な事わかりました。それは東京で受験勉強してゐる當時、疲れはて、勉強もあきて来たりなどします。庭へ出て植木鉢を見ると疲れも何も忘れてあり、

勉強しなければだめだと、又自然と机の前に座らせられます。私は種本にどうしてそんな力があるのかと、不思議に思つて考へて見ました。それはあたりまへのことでした。冬の間閑居められ、成長できなかつた種木が春夏にすくすくと心も何もすーとすき通る様なやほうかい感を出させる葉をゆるかしながら、伸びて行くそれを見て、誰しも心が晴れたり、希望にもえて心もひきまわり、自然と勉強もさせるのであります。

大村小學校児童園藝會

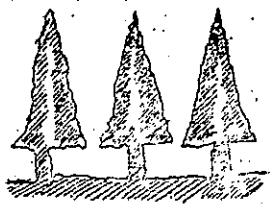
金原くま

今回大村小學校児童園藝會が組織された。目的は私達を土に親ませ、勤勉忠實の徳性を涵養し、併せて本島の産業動員を行ひ、村の爲につくすのである。この村を立派な村にするには如何にしても農業が必要である。高学料である和達は男女共に協力して事にあたり、蔬菜、花卉、盆栽等立派に育て、村の人々を驚かせてやらうではないか。そして此の村を世界的優良農村と云はれるやうな立派な村にして、卒業後は益々ひろく、村事を研究しよう。家には庭がないとかいふらく、園藝を云つて園藝をしない計畫を企てるやうな事はないやうに、農業で習つた事を實地に應用して何でもやらう。そして益々私達の生活に興味をもたせると同時に、修養努力して大村小學校の名を全国に輝かす覚悟だ。

私の園藝

間瀬久子

園藝會が開かれたので私はゴム虎の尾かコ等を植えた。毎日タタキ生懸命に水をやつたり、やしをやつたりしてゆく内に一日まじにのびて行く。本當に楽しみなものである。後には澤山作つて島の植物を内地の人に紹介し、小笠原島の爲につくさう。



萌ゆる若草

青年學校たよ

本年度奮闘了ル

郷元師聯合艦隊へ訓示ノ云即
是ニ備ハシ武人ノ一生信守

不斷の競争に於て、時の平戦に依り、其責務に輕重あるの理なし、事なれば勿論青年教練の目的は此等武事を専らにするものではない。併し身心の練磨法唯一の良法として教練を選択した所に重大な意義があることを見逃してはならぬ。步兵操典には「訓練精進にして必勝の信念堅く軍紀を厳格にして、攻撃精神を充溢せる軍隊は能く物質的威力を發奮して戦捷を致し得るものとす。又、赫々たる傳統を有する國軍は愈々忠君愛國の精神を低弱し、益々訓練の精進を重んじ、激烈の精神に至るも上下相信倚し、毅然として必勝の確信を持つべきならず」と。我が大村青年學校は内地の天れと恥が其の赴き、ま異にするものがある。即ち軍事に際しては後援の練に、先づ起つて防衛に當らなければならぬからである。六月十八日を以て放課後、夜間をマノヒ、片れ共之は各人の日々、訓練は決して懈怠のため訓練でない、と決心することを前文を讀んで了解せられたい。

本年の徴兵検査も了んだ。アノ立派な身二人分三人分の内体を一人持つて居るやうな体格何処へ無しても体格一等賞でもあつて、大村の青年の体格が向上するのは結構。各々も大に喜ぶたい。流し、或はからつたりと決して、よいと計りは由されたい。青年學校在籍者中十六名中、甲種合格が七名、外種合格は僅々たるものである。唯希は是等の入々全部に假令一人でも、うどの大木でないように切に々々。

寸陰

を惜んで出で、は規條に従ひ節制を重んじ、共同團結の心を堅くして、よく自己を修め、一家を養へ、我郷を盛んにすべく、風雨を物ともせず、日々耐んだ此の心此の身を以て参加した父島防空演習習熟、し数多の得難い知識を体得し、防りつゝ攻めつ具最も緊張裡に立つた、蓋し熱し易く冷め易い根性を断絶して、連綿不斷益訓練を重ね、お愈々保護の心を堅くし、なげにたれぬ。

菊池武俊

は大東島三月五号学校に在り、中本三子、徴兵検査直で、甲種合格の名譽を担つた。三月五号下校するが、今因本村に留つて一層訓練に励しまんと先月入隊して、精勵してゐる。多くの中には、徴兵検査がらみと、以後萬事に、バト出、席をないし、りがあるが、同人は時勢に目覺れたま、三子として賞すると共に、層の自重を勉むる。をけい。

六月二十七日現在 在籍生徒數 (女子部ハ異動ナキニ付省ク)

研	由	科	六	三	計
一	二		二	三	
三	二	五	二	一	一
			九	五	
				一	一
				一	一
				一	一
				五	
					計

たのでし、一第百六十八號 昭和十五年六月 大東島高等小學校 編輯部